

手の肌の生理学と感染症対策

ウイルス・細菌は一般に手を介して移るケースが多い。感染症対策には、マスクの着用や他のヒトとの距離を保つことにも増して、手洗いが大切。

バイオエッセンシャルズ研究所
学術部

先ず手洗い！


● 手の肌の感染防止の仕組み

手の肌にも感染防止の仕組みはありますが、手の肌は衣服などに覆われずウイルスや細菌などの微生物に直接さらされているうえ、直接触れる、触った手で顔を触ることが多くなるなど、常に感染リスクにさらされています。ウイルスや細菌は、直接あるいは手をかいて、目・鼻・特に口から体内へ侵入します。感染症対策の基本原則は徹底した手洗いと言われる所以です。

1. 手のひらには皮脂腺（皮脂に含まれる不飽和脂肪酸がウイルスや細菌の増殖を抑制）がなく、病原性微生物への抵抗性が低い。手の甲も顔に比べて皮脂腺が少なく、ウイルスや細菌の増殖抑制が弱い。
2. そのため、手のひらや指先などは、角質層が厚く、ウイルスや細菌の侵入を防ぐ、あるいは物を掴んだりする作用器としての強度を保つ。
3. また、汗腺（汗に含まれる抗菌ペプチド「ダームシジン」は広い範囲のウイルスや細菌の微生物に作用する）が多い（頬の約2倍）

手の肌には身体が持つようなウイルスや細菌などの微生物に接触しても感染せず病気にならない、たとえ発病しても多くは治癒するような生体防御機能はありません。

そのため、最善の感染症対策のポイントは：

- 先ず、手の肌を流水洗浄（物理的除菌） で、肌表面に付着・寄生するウイルスや細菌を

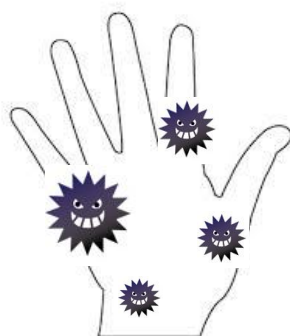
除去する。なお、流水洗浄できない場合は、海の森 WashShield でしっかり除菌する。

- 次に、除去・除菌した後に、ウイルスや病原性細菌が肌表面に付着・寄生しても増殖させないように、ハンドシールド（抗菌 & バリア改善を同時に）するケアを施す。ウイルスが繁殖する前に対峙する。

※ 手の肌は、頻繁に水・アルコール消毒液（化学薬剂的除菌）に触れますと、荒れや乾燥が生じやすくなります。荒れや乾燥は細菌やウイルス増殖の最適状態になりますので、海の森 WashShield（微量天然物質的除菌）でハンドシールド（抗菌 & バリア改善）して増殖を抑制し、同時に荒れ・乾燥を防ぐことが大切です。

※ アルコール消毒液の場合、汚れがある状態では消毒効果は期待できません。汚れを落としてからアルコール消毒します。

手のひらや指先や指の間は皮脂腺がなく皮脂膜バリアがないため、感染防止の仕組みは脆弱。また、荒れや乾燥が起きやすい



手のひらや指先は角質層が厚く、感染防止の仕組みはあるが、頻繁に流水洗浄やアルコール消毒すると、角質バリアが壊れ、感染防止の仕組みが脆弱になる。また、荒れ・乾燥が起きやすく、ひびが発生しやすい